

平成27年度事務事業評価シート(26年度実績)

◎基本情報

事務事業名	鳴門市学校・幼稚園防災対策事業		担当部署	教育委員会 学校教育課	
総合計画体系			根拠法令 計画など	鳴門市地域防災計画 鳴門市学校・幼稚園防災推進計画	
基本政策(大項目)	2	ずっと笑顔で生きがいを感じるまちづくり	事業期間	開始	平成 ▼ 26年度
政策(中項目)	3	たくましく生きる力を育むまち なると			終期
(小項目)	教育行政				
施策	1	教育行政の充実			
基本事業	7	安全で安心な教育環境の整備充実			

◎事業概要(PLAN)

事業対象	誰(何)を対象にしているか	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input type="checkbox"/> その他 <input type="checkbox"/> 内部管理 本市の市立幼稚園・小学校・中学校						
事業目標	対象をどのような状態にしたい(目指す)のか	「鳴門市学校・幼稚園防災推進計画」に基づき、本市の幼児・児童・生徒及び職員の災害発生時の安全確保対策の推進と一時避難に必要な災害対応備品等を計画的に整備するとともに、防災教育及び防災管理・組織活動の充実と推進を図る。						
事業計画	26年度に何を計画していたか	「鳴門市学校・幼稚園防災推進計画」に基づいた取組の推進 ①幼稚園、小・中学校の幼児児童生徒用ヘルメットの整備 ②幼稚園、小・中学校教職員用ヘルメットの整備 ③幼稚園、小・中学校児童生徒用保温アルミシートの整備 ④学校防災推進会議の開催(年2回程度) 取組状況の検証・計画の修正、重点事項の決定 ⑤学校防災推進会議実務者部会の開催 計画の修正案、重点事項の原案等の検討・作成						
成果目標	事業目標の達成度合	指標名	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	単位
		重点取組項目数	3	6	6	6	6	個

◎実施結果(DO)

事業実施内容	26年度は目標を達成するため、手段としてどのような活動を行っているのか	防災備品については、計画どおり各校・園に整備することができた。発災の際、子どもたちの命を守るための備品は整ったと考えている。また推進会議で取り決めた重点項目について、実務者部会において具体的な取組を進めた。鳴門教育大学の阪根健二教授や、県の学校防災アドバイザー一活用事業での指導助言を活かし、防災マニュアルの整備や家庭と連携した防災教育等に各校・園で取組を進めることができた。						
事業実施手法		<input checked="" type="checkbox"/> 市実施 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> その他						
		指標名	25年度実績	26年度実績	27年度目標	28年度目標	29年度目標	単位
活動指標 <small>実施した事業の活動量を示す指標</small>	1	防災推進会議開催数	2	2	2	2	2	回
	2	実務者部会開催数	3	3	3	3	3	回
成果指標 <small>対象にどのような効果があったかを示す指標</small>		重点取組項目数	3	7	—	—	—	個
		目標達成率(実績/目標)		116.7	—	—	—	%
今年度の進捗状況	計画どおり		事業全体の進捗状況		計画どおり			

(千円)

財源内訳	年度	区分	国	県	地方債	その他特定財源	一般財源	事業費計
	平成26年度	当初予算額	0	0	0	0	72	72
		全体予算額	0	3,154	0	0	3,154	6,308
		決算額	0	2,914	0	0	2,967	5,881
		繰越額	0	0	0	0	0	0
		人件費	正規職員(6,878千円/人)	臨時職員(2,023千円/人)		総人件費		総事業費
	0.3	0.0	2,063	7,944				

年度	25年度決算	26年度決算	27年度	28年度	29年度	
事業費推移	事業費	3,392	5,881	70	-	-
	うち一般財源	944	2,967	70	-	-
	人件費	1,955	2,063	2,063	-	-
	総事業費	5,347	7,944	2,133	-	-

◎項目別評価(CHECK)

評価項目		評価値	所見欄
①活動に対する評価	有効性	B:概ね有効性があった	年度当初、推進会議で取り決めた重点項目については実務者部会での研修により、有効性のある活動となった。
	効率性	B:概ね効率的だった	推進会議で計画を定め、実務者部会で具体的に取組んでいくという進め方は効率的であった。
②成果に対する評価	指標名	重点取組項目数	
	目標	6	個
	実績	7	個
	評価	B:概ね目標を達成できた	
③総合的な評価		B	
		年度当初、計画した取組項目以外にも、多くの項目に取り組んだ。項目により軽重はあったが、どの項目においても一定の成果を挙げることができた。	

◎今後の方向性(ACTION)

課題	これまでの取組についても、継続し、改善を進めていく必要がある。とりわけ、防災マニュアルの改善や家庭と連携した防災教育については、継続の必要性を認識している。また、学校間で取組に差のある項目について、今後、重点的にとりあげていく必要がある。				
今後の方向性	1.廃止	2.要改善	3.現状維持	4.拡充	3
↓今後の方向性を踏まえた上で、以下の欄に記入してください。					
実施内容	H27年度	これまでの取組の継続と改善をしていく。また、地域と連携した防災教育についての取組を進めていく。			
	H28年度	これまでの取組の継続と改善をしていく。また、PTAと連携した防災教育の推進を一層進める。			